



# 学校便り 琢磨

令和4年度 第13号 R4.11.21 三豊市立詫間小学校

## 栄光を讃える！

先週、放送で表彰状の伝達を行いました。おめでとうございます。

◎第18回香川県小・中学校総合文化祭科学体験発表会小学校の部

敬称略

5年 桑田 隆広 「命を守る SABO ～砂防堰堤のひみつ～」

◎税に関する絵はがきコンクール

6年 安部 ひなた 優秀賞

◎第53回香川県小学生選抜陸上競技大会（5年）

5年女子走高跳

第4位 5年 伊瀬 日南子 1m20

第5位 5年 西山 羽瑠 1m15

5年女子100m

第14位 5年 橋本 怜 15秒13

5年男子80mH

第15位 5年 林 遥斗 14秒51

5年男子4×100mリレー

第16位 詫間小学校 林 遥斗、妹脊 尽、亀井 娃秀、田坪 希星 60秒16

5年女子4×100mリレー

第14位 詫間小学校 東 和花、橋本 怜、大西 那央、岩田 優梨 62秒14



## 学級園で育てたサツマイモを「やきいも」にしました！



11月16日（水）。2年生は、学級園で育て育てたサツマイモを「やきいも」にして食べました。

2年生の皆さんは、サツマイモにぬらした新聞紙を巻き、その上からアルミホイルをさらに巻き付けて、やきいもの用意をしてくれました。

給食後の5時間目でしたが、「おいしい！あま～い！ホクホク！」と言いながら、たくさん食べていました。

私は、ただ焼いただけなのに、感謝してくれたので、うれしかったです。

## 11月25日の授業参観・学習発表会について

授業参観・学習発表会は、予定通り今週25日（金）の5～7時間目の分散型で実施いたします。

ただし、当日に学級閉鎖となったクラスがあった場合は、感染拡大を最小限に抑えるため、当該クラスだけではなく、その学年全ての授業参観・学習発表会を中止します。その場合、学級閉鎖でないクラスは7時間目まで通常の授業を行います。他の学年につきましては、授業参観・学習発表会を予定通り実施いたします。学習発表会を中止した場合は、動画を撮影し、後日、タブレットでご覧いただく予定です。

## 真鍋校長の独り言 その7

### 子どものころの夢について

先日、放送委員会からアンケートの依頼がありました。その中に、「子どもの頃の夢は？」とか、「子どもの頃の自分に言ってあげたいことは？」という項目があり、何気なく答えて返しました。すると、お昼の放送で、それを紹介してくれました。自分の子どもの頃の夢を、放送委員さんが紹介してくれているのを聞きながら、「何か物を作ったり直したりする仕事をしたい。何でもいいから日本一になりたい。」という子どもの頃の夢は、本当にそうだったのか、もっと他にもあったのではないかと考えはじめました。

年を取っていくと、「最近のことはすぐ忘れてしまうが昔のことはよく覚えている。」という感じがあるのですが、こと「将来の夢が何だったのか」と考え始めると、どうもはっきりとしないのです。確かに、「何か物を作ったり直したりする仕事をしたい。何でもいいから日本一になりたい。」という夢をもっていたことは、まちがいないのですが、他にもあったような気がします。でも、それがどうしても思い出せないのです。とっさに出た答えが、きっと合っているのだろうと思ひまして、一応、子どもの頃の夢としてしまったわけです。

おそらく、はっきりしないのは、きっと、次々と「将来の夢」が変わっていったからではないかと思うのです。もしも、今、「将来の夢は？」と聞かれたら、きっと「～したい。」「～になりたい。」と答えられると思います。そして、今から20年くらい経って、60歳の頃の将来の夢は？と聞かれても、だいたいのは覚えているのではないかと思うのです。それは、人生の可能性の幅が狭くなってきているからなのかもしれません。言い換えれば、子どもの頃は、日々成長していきますし、無限の可能性を秘めているわけです。例えば、小学校1年生の時に、ケーキが大好きだから「ケーキ屋さんになりたい。」という夢をもっていた子が、小学校5年生からサッカーを習い始めたら、「サッカーのワールドカップに日本代表で出場したい。」という夢をもつようになります。夢も成長に伴い、また生活の変化に伴いどんどん変化していくものなのでしょうね。特に、子どもの頃は…。

夢は、大きいほどいい、とよく言われますが、今考えたら「何でもいいから日本一になりたい。」というとてつもなく大きな夢を私はもっていたわけです。でも、この夢は、実は今ももち続けているのです。「詫間小学校を日本一の学校にしたい。」と。子どもの頃から変わっていないのですね。これが、60歳（還暦）を目の前にした「現在の夢」なのです。きっと20年後でもはっきりと覚えている将来の夢なのです。

ただ、年を重ねて変わったのは、何かと比べて、誰かと比べて「日本一」というのではなく、自分自身が「日本一だ！」と実感できることが夢となりました。その意味では、現在は、夢に近づいています。時には3歩夢に向かって進み、時には2歩後退しながらも、私の気持ちの中では、少しずつ確実に夢に向かって進んでいると思います。

もう一つの質問、「子どもの頃の自分に言ってあげたいことは？」について、私は「そんなことで悩まないでいいよ。あなたは少なくとも60歳までは、幸せに生きていますよ。」と答えました。これも間違いのない「思い」なのですが、今、考えたら少し違うような気がします。言い直しを許されたとしたら、こう言いたいと思います。

#### 子どもの頃の佳樹君へ

あなたは、勉強せずに遊んでばかりです。物を壊すばかりしてしかられっぱなしです。落ち着きが無く、じっとしてられない性格ですね。先生からも、「10分くらいじっとできないのですか！」としかられていますね。そして、いつも、独り言ばかり言っています。「うるさい！」とお姉さんにしかられていますね。でも、何の心配もないよ。物を壊すことで学んだことが、今は、物を作る力、直す力に変わっていますよ。じっとしてられないのは変わっていませんが、かえってそれが、みんなの役に立っていますよ。そして、その独り言は、約50年後にあなたは校長先生となり、学校裏の裏に「独り言」という文章を書いて皆さんに読んでもらうことにつながるのですよ、と。